

鹿児島県総合教育センター

令和3年度長期研修研究報告書

研究主題

「なぜ学ぶのか」が分かり「なりたい自分」に向けて
学習に取り組む児童の姿を目指して
— 自閉症・情緒障害通級指導教室の自立活動の取組 —



始良市立始良小学校

教諭 吉海 直

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の構想	
1	研究のねらい	1
2	研究の仮説	1
3	研究の計画	2
III	研究の実際	
1	自閉症・情緒障害通級指導教室について	
(1)	通級による指導の対象	2
(2)	自立活動とは	2
2	研究主題についての基本的な考え方	
(1)	「なぜ学ぶのか」が分かる児童の姿とは	3
(2)	「なりたい自分」に向けて学習に取り組む児童の姿とは	4
3	意識調査の結果及び考察	4
4	実態を踏まえた中心的な課題の設定	
(1)	対象児の実態把握	5
(2)	年間指導計画の作成	7
5	検証授業Ⅰの実際	
(1)	1単位時間の指導過程	8
(2)	検証授業Ⅰの視点	9
(3)	活動計画	9
(4)	授業の実際	9
(5)	成果と課題	12
6	検証授業Ⅱに向けての工夫・改善	
(1)	年間指導計画の見直し	13
(2)	プランニングについて	14
(3)	1単位時間の指導過程	15
7	検証授業Ⅱの実際	
(1)	活動計画	16
(2)	活動を通してねらう児童の姿とその手立て	16
(3)	授業の実際	17
(4)	成果と課題	20
(5)	活動全体を終えての振り返り	20
IV	研究のまとめ	21
※	引用文献・参考文献	

I 研究主題設定の理由

通級による指導とは、通常の学級に在籍している児童生徒で、学習場面や生活場面で生じる困難を改善・克服するために、障害に応じた特別の指導を「通級指導教室」といった特別な場で受ける指導形態のことである。通級による指導では、障害に応じた特別の指導として、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領第7章に示す自立活動の内容を参考に指導を行う。通級による指導を受けている児童生徒数は年々増加の一途をたどっており、平成29年には10万人を越えた（文部科学省¹⁾2019）。また、平成30年度には高等学校における通級による指導が制度化された。そして、新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議²⁾（2021）の報告では、特別支援学級、通級による指導を担当する教師に求められる専門性として、「障害の特性等に応じた指導方法」や「自立活動を実践する力」などが示されている。

本校には、始良市内の全ての小学校から通うことができる通級指導教室が4教室（難聴、言語2教室、自閉症・情緒障害）設置されており、今年度の対象児童は52人である。これまで一人一人の教育的ニーズに応えようと、発達検査やアンケート、教育相談等で実態を把握し、認知機能の向上を目指した活動を中心とした自立活動を行ってきた。通級による指導対象児童の、通常の学級における授業態度や友人関係等の様子から、これまでのような認知機能の向上を目指した活動を中心とした自立活動では、学習や生活場面で生じる困難の改善・克服に十分にはつながっていなかった。そこで、本研究では、通級による指導における自立活動を充実させるために、児童の実態を多角的に把握し整理した上で、学習上又は生活上の困難の改善・克服のための指導に取り組むことが重要であると考えた。

本研究では、まず中心的な課題を設定するために、児童の学習上又は生活上の困難を的確に把握し、整理する。次に、中心課題を改善・克服する道筋となる年間指導計画を作成する。そして、児童が学習課題を自覚できるような課題設定や指導過程の工夫を行う。これらを行うことで、「なぜ学ぶのか」が分かり、「なりたい自分」に向けて学習に取り組む児童を育てることができると考え、本主題を設定した。

II 研究の構想

1 研究のねらい

- (1) 中心的な課題を設定するために児童の実態を的確に把握する。
- (2) 中心的な課題を改善・克服するために児童の自立活動の指導内容を具体化し、個別の年間指導計画を作成する。
- (3) 児童自身が「なぜ学ぶのか」が分かり、「なりたい自分」に向けて学習に取り組むことができる指導過程を工夫する。

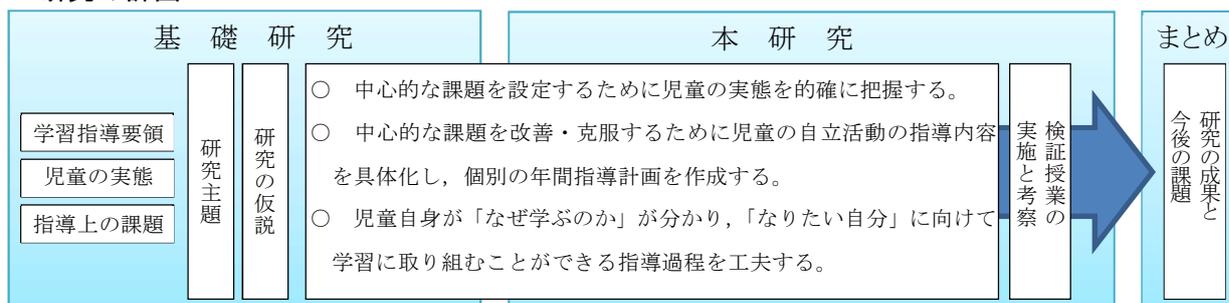
2 研究の仮説

児童の実態を整理した中心課題を基に、年間指導計画を作成し、1単位時間の指導過程の工夫を行えば、「なぜ学ぶのか」が分かり、「なりたい自分」に向けて学習に取り組む児童を育てることができるのではないかと考えられる。

1) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2019）『（参考）通級による指導の現状』
https://www.mext.go.jp/compmponent/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/06/1414032_09.pdf（2021年4月21日閲覧）

2) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）『新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議 報告』
https://www.mext.go.jp/content/20210208-mxt_tokubetu02-000012615_2.pdf（2021年8月20日閲覧）

3 研究の計画



Ⅲ 研究の実際

1 自閉症・情緒障害通級指導教室について

(1) 通級による指導の対象

文部科学省³⁾(2021)によると、通級による指導の対象となる自閉症の障害の程度を「自閉症又はそれに類するもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のものである。」としている。ここでいう、「それに類するもの」とは、アスペルガー症候群を含む広汎性発達障害のことを示している。そして、通級による指導の対象となる情緒の障害の程度を「主として心理的な要因による選択制かん黙等があるもので、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度のものである。」としている。

通級による指導を行うに当たっては、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の第7章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものであり、情緒障害の特性や、児童生徒一人一人の教育的ニーズに十分配慮することが大切である。

本校の自閉症・情緒障害通級指導教室の対象児童の実態は多様であり、教育的ニーズも一人一人異なる。また、診断を受けている児童はほとんどいないが、ADHDの傾向やLDの傾向のある児童も通級による指導の対象として受け入れているため、一人一人の教育的ニーズに配慮して指導・支援する現状がある。

(2) 自立活動とは

ア 自立活動の目標

自立活動の目標は、文部科学省⁴⁾(2018)によると、以下のように示されている。

個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

自立活動の目標は、学校の教育活動全体を通して、自立を目指すことを示したものである。ここでいう「自立」とは、個々の児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じて、主体的に自己の能力を可能な限り発揮し、よりよく生きていくことを意味している。

そして、「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する」とは、児童・生徒の実態に応じ、日常生活や学習場面等の諸活動において、その障害によって生じるつまづきや困難を軽減しようとしたり、つまづきや困難の解消のために努めたりすることを明記したものである。なお、「改善・克服」については、改善から克服へといった順序性を示しているものではないことに留意する必要がある。「調和的発達の基盤を培う」とは、一人一人の児童生徒の発達の遅れや不均衡を改善したり、発達の進んでいる側面を更に伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにしたりして、全人的な発達を促進することを意味している。

3) 文部科学省 (2021) 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm (2021年7月3日閲覧)

4) 文部科学省 (2018) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』開隆堂

イ 自立活動の内容

自立活動の内容は、人間としての基本的な行動を遂行するために必要な要素と、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために必要な要素、6区分27項目で構成されている（表1）。

表1 自立活動の内容（文部科学省⁴⁾を参考に作成）

1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関する事。 (2) 病気の状態の理解と生活管理に関する事。 (3) 身体各部の状態の理解と養護に関する事。 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事。 (5) 健康状態の維持・改善に関する事。
2 心理的な安定	(1) 情緒の安定に関する事。 (2) 状況の理解と変化への対応に関する事。 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事。
3 人間関係の形成	(1) 他者とのかかわりの基礎に関する事。 (2) 他者の意図や感情の理解に関する事。 (3) 自己の理解と行動の調整に関する事。 (4) 集団への参加の基礎に関する事。
4 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事。 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事。 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関する事。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。
5 身体の動き	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事。 (3) 日常生活に必要な基本動作に関する事。 (4) 身体の移動能力に関する事。 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。
6 コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事。 (2) 言語の受容と表出に関する事。 (3) 言語の形成と活用に関する事。 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事。 (5) 状況に応じたコミュニケーションに関する事。

2 研究主題についての基本的な考え方

(1) 「なぜ学ぶのか」が分かる児童の姿とは

本研究では「なぜ学ぶのか」が分かる児童の姿を以下のように捉えた。

「～できるようになりたい。」「～をやってみたい。」等の思いや願いを基に、必要性や意欲をもって通級指導教室での学習に取り組もうとする姿

通級による指導の対象児童の中には、学習や行動面への見通しをもつことの困難さや、自分の感情のままに行動して失敗したり注意されたりする経験を繰り返していることがある。これらの経験から児童は、学習上又は生活上に対しての抵抗感や自己肯定感の低さが見られる。

国立特別支援教育総合研究所⁵⁾(2016)は「自立活動の指導では、これまで子供の多様性やニーズを踏まえた個に応じた指導が重要視されてきたが、今後はより一層子供の学習スタイルの多様性や教育的ニーズと

いう視点から指導方法を吟味し、工夫を行うことが求められる。」としている。つまり、一人一人の児童が「なりたい自分」を目標とし、興味・関心を生かし、中心とする課題の改善・克服に向けた活動内容を設定することができれば、「なぜ学ぶのか」が分かる児童を育むことができ、通級による指導の自立活動がより充実できるのではないかと考えた。そこで、児童が思っている「できるようになりたいこと」や「困っていること」を確認することで、児童自身がどうなりたいかを具体的に自覚することが必要であると考えた。

5) 国立特別支援教育総合研究所 『特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究』(2016) <https://www.nise.go.jp/cms/7,12406,32,142.html> (2021年5月1日閲覧)

(2) 「なりたい自分」に向けて学習に取り組む児童の姿とは

本研究で「なりたい自分」に向けて学習に取り組む児童の姿を以下のように捉えた。

どのような方法で課題を解決していけばよいか分かり、目標とする「なりたい自分」に向けて通級指導教室での学習に繰り返し取り組む姿

通級による指導では、自分に合った学び方を習得するための指導も必要である。自分なりのやり方が分かり行動を調整したり、学習したことをこの先どう生かせるのか児童自身が理解したりしていく必要がある。そのために、学び方を意識した指導過程や言葉掛けを工夫することで通級による指導において「こういうふう学習したから～できた。」という学習方法の振り返りができると考える。

国立特別支援教育総合研究所⁶⁾(2021)は、「児童生徒が社会の中で自己実現できるよう、学校教育の中で、友人や教師等との間に信頼感を育みながら、学びを楽しみ、なりたい自分に少しでも近づけるよう支援することが学校教育における使命と言える。」と述べている。そこで、通級指導教室による自立活動の指導・支援を一層充実させるためには、児童自身が「できた」や「頑張った」と成長を実感できるようにする活動の設定をする必要がある。そのためには、児童生徒が興味をもって主体的に活動し成就感を味わうことができるようにするために、児童生徒自身が自分の具体化された学習課題を認識し、自覚できるようにした上で学習を繰り返すことで課題を解決できた実感を伴うことが大切であると考えた。

3 意識調査の結果及び考察

令和3年6月に本校自閉症・情緒障害通級指導教室で学習する児童9人に対して、どのような思いや願いをもって通級指導教室で学習しているのか、通級指導教室に対しての意欲を明らかにし、研究の基礎資料とするために意識調査を実施した。

通級指導教室で学習する理由は図1のとおりである。全員が先生や保護者に言われて通級による指導を受けていると回答しており、「できるようにになりたいことがあるから」と回答した児童は3人であった。

一方で、「どんなことができるようになりますか。」の質問に対しては、全員が複数の項目を選択しており、「できるようにになりたい。」という気持ちをもっていることが分かる(図2)。

このことから、通級指導教室で学習するようになったきっかけは保護者や教師ではあるが、一人一人が通級による指導で、できるようにしたい思いや願いをもっていることが明らかになった。複数回答の多さから、思いや願いは一つではなく多くのことをできるようにしたいとの思いを抱いて通級指導教室で学習していることが分かる。

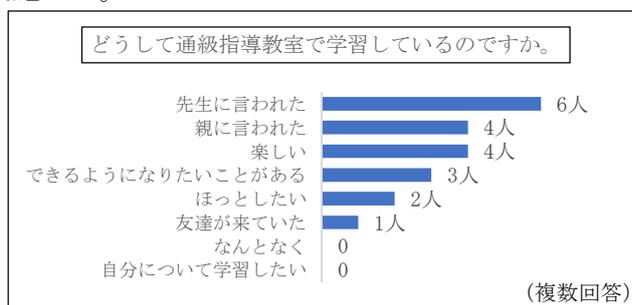


図1 通級指導教室で学習する理由

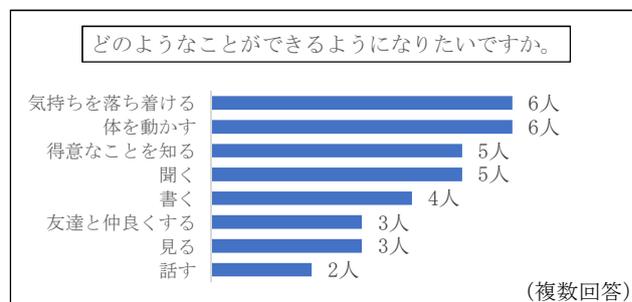


図2 通級指導教室で身に付けたい力

6) 国立特別支援教育総合研究所 『社会とのつながりを意識した発達障害への専門性のある支援に関する研究』(2021) https://www.nise.go.jp/nc/study/intro_res/backbone_failure/developmentally_disabled (2021年6月27日閲覧)

図3は「通級指導教室は楽しいですか。」を示したものである。通級指導教室については、全員の児童が「とても楽しい」、「楽しい」と回答している。しかし、その理由として「授業後のお楽しみタイムが好きだから」、「教室より楽だから」と、学習内容とは異なることを挙げている児童がほとんどであった。

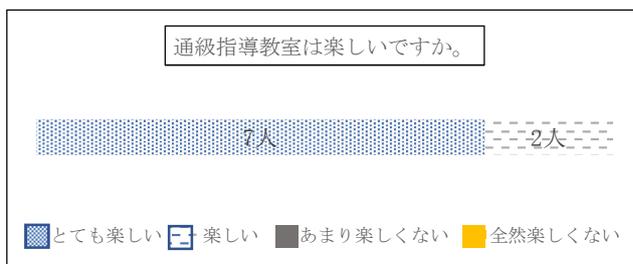


図3 通級指導教室への意欲

これまで、通級指導教室担当として保護者や担任との連携を大切にし、定期的な教育相談や連絡帳などで思いや願いを伝えてきた。そして、通級指導教室で学習している児童に「身に付けさせたいこと」を指導していることが多くなっていた。つまり、大人の願いや思いを優先した学習になっていたのではないかと考えた。児童は「できるようになりたい」思いは溢れていたが、その思いや願いに注目して学習内容を考慮する機会が少なかったため、通級指導教室で学習する意味や意義を考えたり、児童が考える目標に向かって指導や支援をしたりしていくことに注目し、手立てを研究していく必要があると考えた。

4 実態を踏まえた中心的な課題の設定

(1) 対象児の実態把握

本研究における対象児を本校の第3学年の男児にした。その理由として、通級指導教室でできるようになりたい思いや願いを多くもっており、教師がどのような課題設定や手立ての工夫を行えば、児童自身が必要性や意欲をもって学習に対する目標をもち、通級指導教室の学習に取り組むことができるのかと考えた。

対象児は、意識調査の質問に対して以下のように回答している。

質 問	回答と理由
どうして通級指導教室で学習しているのですか。	ほっとしたいから。
どのようなことができるようになりたいのですか。	体を動かすこと。書くこと。友達と仲良くすること。
通級指導教室は楽しいですか。 その理由は何ですか。	とても楽しい。 勉強ができるし、お楽しみタイムがあるから。

障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じた授業を実施するためには、個々の障害の状態及び発達段階や特性を的確に把握することが重要となる。安藤⁷⁾(2001)は、実態把握について「多様な場、条件下で、観察された児童生徒の情報を収集できてはじめて児童生徒の正確な実態に迫ることができる。」としている。

これまでは、通級指導教室の担当が一人で情報を収集し、分析していたが、児童に関わる全ての教師が様々な方法や視点で情報を集め、それらの情報の意味を考えたり、解釈したりしながら多角的に状態を捉えていくことが重要であると考えた。

そこで、通常の学級担任と通級指導教室の担当とで連携し、行動観察や質問紙、個別の発達検査等から情報を収集し、その情報を付箋に記入し、児童の実態を把握した。すると、通常の学級担任からは「意図せず、友達や物にぶつかることが多いです。不注意だけではなく、視野が狭いということに改めて気付かされました。」という感想や、通級指導教室の担当からは「いつも担任の先生と情報交換しているのに、初めて聞いた情報もありました。文字に書いて共通理解することで児童理解が深まりました。」という感想があった。

以上のことから、通常の学級の担任と通級指導教室の担当と連携し実態を把握し、「特別支援

7) 安藤隆男 (2001) 『自立活動における個別の指導計画の理念と実際』 川島書店

学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」⁴⁾に示されている、「実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れの例（流れ図）」を参考に情報を整理し、表2の④のとおり中心となる課題を設定し、指導内容を設定した。

表2 実態把握から具体的な指導内容を設定するまでの流れ図

① 障害の状態，発達や経験の程度，興味・関心，学習や生活の中で見られる長所やよき，課題等について					
長所	<ul style="list-style-type: none"> 積極的 褒められることを期待して行動する 友達のよさを伝えてくれる ユーモアがある 年下に優しい 将棋や水泳，ボール投げが得意 掃除が好き 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が低い 自分ルールを通そうとする 思ったことをストレートに言う 腹痛になりやすい 声のボリュームが大きい 忘れ物が多い 書くことが苦手 人や物にぶつかる マイナス思考 自分本意な言動から友達とのトラブルが多い 姿勢が崩れやすい 				
②-1 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
腹痛になりやすい	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことをストレートに言う マイナス思考 	<ul style="list-style-type: none"> 自分ルールを通そうとする 自己肯定感が低い 	<ul style="list-style-type: none"> 声のボリュームが大きい 忘れ物が多い 書くことが苦手 	<ul style="list-style-type: none"> 人や物にぶつかる 姿勢が崩れる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分本意な言動から友達とのトラブルが多い
②-2 収集した情報を学習上又は生活上の困難や，これまでの学習状況の視点から整理する段階					
<ul style="list-style-type: none"> 毎日のように友達とのトラブルがある。一方，落ち着いた場で話を聞くと自分の気持ちを素直に話すことができるが，状況を客観的に詳しく説明することは難しい。(心，人) 友達と仲良くしたい思いはあるが，意図せずにつつかってしまったり，自分の感情を優先し好き勝手に動いたりするため，友達との関係がうまくいかないことがある。学習態度など級友に注意されることが多く，自己肯定感がとても低い。(心，人，身) 整理整頓ができず忘れ物が多い。学用品が揃わずに，授業に集中できないことがある。読むことや書くことに抵抗感がある。一方で，できるようになりたいという願いもある。(心，身，環) 					
②-3 収集した情報を3年後の姿の観点から整理する段階					
<ul style="list-style-type: none"> 小学校高学年では，学習面などにおいて自分なりの方法に気付き「～の方法で取り組むと・・・できそうだ」と理解できるようになってほしい。現在は，苦手なことは分かっているが，どのように解決したらよいのか分からない状態にある。また，「できない」とすぐにあきらめて取り組まないことがある。授業態度や，宿題への取組にも関係していると考えられる。(心，環) 小学校高学年では，相手の話を受け入れることができるようになってほしい。現在は，意図しない友達とのトラブル(視野が狭くぶつかる，態度を指摘される等)が自己肯定感を更に低くさせている。(心，身) 小学校高学年では，決められた場所に置くことができるようになってほしい。現在は，整理整頓ができず忘れ物が多いため，学習道具が揃わずに学習への参加意欲を失ったり，集中が続く環境が整わなかったりしている。(心，環) 					
③ ①をもとに②-1，②-2，②-3で整理した情報から課題を抽出する段階					
<ul style="list-style-type: none"> ルール等を理解していても，自分の気持ちを優先してしまう。(人) 周りから注意を受けることが多く，自己肯定感がとても低い。(心) 苦手さ(読む，書くなど)を自覚しているが，どのようにすればよいのか分からず混乱することがある。(心，環，身) 気が散りやすく，整理整頓ができず忘れ物も多い。(心，環) 					
④ ③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し，中心的な課題を導き出す段階					
<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた環境(通級指導教室)であれば，行動を振り返り，よりよい方法に気付くことができる。そこで，他者からのアドバイスを受け入れよりよく考えたり行動したりする経験を積み重ねることで自己を肯定したり，自分なりの課題解決の方法に気付くことが大切である。 読む，書く等の苦手さは自覚しているが，具体的な解決方法は見いだせていないため，学習に対する基本的な態度が身に付いておらず，授業に集中したり，宿題を提出したりする習慣も身に付いていない。今後の学習理解の課題が大きくなると考えられる。 					
⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階					
<ul style="list-style-type: none"> 「自分のよいところ」に目を向けられるようにし，自己肯定感を高めることができる。 人からのアドバイスのよさを実感し，よりよく学ぶ方法を考えることができる。 					
⑥ 指導目標(⑤)を達成するために必要な項目を選定する段階					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 情緒の安定に関すること (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	(3) 自己の理解と行動の調整に関すること	(4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	(5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	
⑦ 項目と項目を関連付ける際のポイント					
<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさに気付き，他者のアドバイスを選択できる。(心) — (1)，(3) (人) — (3) 体の大きさを視覚的に表すことで，感覚を通して客観的な自己理解を促す。(人) — (3)，(環) — (4)，(身) — (5) 自分なりの学習方法に気付き，学習を繰り返すことができる。(心) — (3)，(身) — (5) 					
⑧ 具体的な指導内容を設定する段階					
ア 通級指導教室において，頑張っていることを視覚的に表すことで自己肯定感を味わう。 イ 体の大きさや部位を視覚的に表すことで，ボディイメージを明確にする。 ウ 提示した選択肢の中から自分に合った学び方を見付け，活用する。					

※ 文末にある(健)，(心)，(人)，(環)，(身)，(コ)は，自立活動の指導内容6区分，健康の保持，心理的な安定，人間関係の形成，環境の把握，身体の動き，コミュニケーションそれぞれの頭文字である。

(2) 年間指導計画の作成

これまで本校の通級指導教室では、個別の指導計画に記載している長期目標や短期目標に沿って指導を行っており、自立活動の年間指導計画の作成まで至っていなかった。

柳澤⁵⁾は、「指導計画なく指導を進める場合は、指導が単発的になりやすい。指導の流れを見通すことができ、長期目標や短期目標、そして各単元の目標の整合性や関連性を一望できる計画表があれば、児童につけたい力を具体化することができると考えられる。」と述べている。そこで、柳澤が提唱している自立活動の指導計画例を参考に、表2の流れ図から導き出した中心となる課題を根拠とし、対象児の通級による自立活動の年間指導計画を作成した。

また、年間指導計画作成の際には、短期目標の達成を目指し、一定期間内で複数の設定した活動を行った結果、短期目標が達成することができるような指導内容を設定した。また、通級指導教室での学習においては、主に学習面と行動面の指導がある。そのため、学校行事の時期に合わせて行動面の学習を中心に、それ以外の期間では主に学習面に関する指導内容を設定することで対象児が通級指導教室で学習したことを想起しやすいよう考慮した。

さらに、作成する際に次のことに留意して作成することにした。流れ図④の「③で整理した課題同士がどのように関連しているかを整理し、中心的な課題を導き出す段階中心的な課題」をそのまま転記し、次に流れ図⑤の「④に基づき設定した指導目標を記す段階」を長期目標に据える。そして短期目標の児童の姿を具体化する。また、流れ図⑥「指導目標(⑤)を達成するために必要な項目を選定する段階」の指導項目は月別の目標に記載し、流れ図⑦の「項目と項目を関連付ける際のポイント」を意識しながら流れ図⑧「具体的な指導内容を設定する段階」を主な学習内容に取り込むことで、対象児の中心的な課題を基に指導内容を具体化した年間指導計画を作成した(表3)。

表3 対象児の通級による自立活動の年間指導計画

実態を踏まえた 中心的な課題	<ul style="list-style-type: none"> 落ち着いた環境(通級指導教室)であれば、行動を振り返り、よりよい方法に気付くことができる。そこで、他者からのアドバイスを受け入れよりよく考えたり行動したりする経験を積み重ねることで自己を肯定したり、自分なりの課題解決の方法に気付くことが大切である。 読む、書く等の苦手さは自覚しているが具体的な解決方法は見いだせていないため、学習に対する基本的な態度が身に付いておらず、授業に集中したり、宿題を提出したりする習慣も身に付いていない。今後の学習理解の課題が大きくなると考えられる。 		
長期目標 (1年間)	<ul style="list-style-type: none"> 他者評価を受け入れることができる。 学習することに関して、自分が取り組みやすい読み方を選択することができる。 人をお願いをすることができる。 		
短期目標 (1学期)	<ul style="list-style-type: none"> 自分のよさに気付くことができる。 自己評価をする経験を積むことができる。 体の大きさを客観的に自己理解できる。 		
月	活動名(時数)	目 標	主な学習内容
5	通級に慣れよう(4) 先生の話进行こう(3)	新しい先生に慣れることができ、自分のことを話すことができる。(心、人) 話を聞くときの態度を知り、ポイントを考えることができる。(心、身)	通級指導教室の目標を立て方。 自分のことを話し方。 ソーシャルスキルトレーニングを通しての話の聞き方。
6	自分の考えを伝えよう(2) どんな約束事があるかな(3)	自分の思いや場の状況を説明することができる。(心、環) ソーシャルスキルトレーニングを通して、約束の大切さに気付くことができる。(環、人)	気持ちの伝え方や話の聞き方。 自分と相手の気持ちの違い。 約束を守る意味。
7	自信があることを見付けよう(4)	自分の自信があることに気付くことができる。(心、環、人) 担任からのよい評価を受け入れることができる。(心、人)	自分の日々の行動の振り返り方。 話の聞き方。適度な振る舞い方。
	短期目標 (2学期)	<ul style="list-style-type: none"> 対話を通して活動のポイントや行動リストを教師と作成することができる。 「読むこと」に関する自己理解を深める。 他者のよさを認め、評価することができる。 	
9	目標を決めよう(2) どうやって「読む」かな?(3)	自分の言動を振り返り、適切な目標を設定できる。(心、環) 2学期の学習に意欲を高めることができる。(心)	2学期の目標を立て方。 行事への見通し。 読みやすさにつながるツールの活用法。 実際の場面でのツールの活用法。

月	活動名(時数)	目 標	主な学習内容
10	友達と一緒に活動するときの約束ごとを知ろう(4)	約束を守る意味を知ることができる。(人) 約束を守るときのポイントに気付くことができる。(環) 約束が守れたときの気持ちに気付くことができる。(心, 人)	集団行動の約束事。 通常の学級でのきまり。 きまりを守れている友達のよいところ。
11	もう少しでできることって何だろう(5)	自分の得意なことと苦手なことを把握し、もう少しでできることを知り、自信につなげる方法に気付くことができる。(心, 環)	自分の苦手なところ。 あと少しでできそうなこと。
12	2学期の頑張りを発表しよう(3)	自分の頑張りを認めることができ、まとめて発表することができる。(心)	2学期の学習を振り返り。 発表の方法や気を付けること。
短期目標(3学期)		<ul style="list-style-type: none"> 見方・考え方を変えるよさを知ることができる。 自己と他者のよさを認めることができる。 人に頼みごとをすることができる。 	
1	目標を決めよう(2)	自分の言動を振り返り、適切な目標を設定できる。(心, 環) 3学期の学習への意欲を高めることができる。(心)	3学期の目標の立て方。 行事への見通し。
1	「リフレーミング」でよいところを見付けよう(3)	見方・考え方を変える「リフレーミング」のよさを知り、自分のことをよりよく理解することができる。(心, 環)	自分の長所・短所の理解。 リフレーミング。
2	先生や友達に頼んでみよう(4)	人に頼む心地よさに気付くことができる。(心) 人に頼むときのスキルを身に付けることができる。(環)	相手の立場に立った考え方。
3	1年間の頑張りを振り返ろう(3)	自分の頑張りを認めることができ、発表することができる。(心)	1年間の学習の振り返り。 自己の頑張りにへの気付き。

※ 目標の文末にある(健)、(心)、(人)、(環)、(身)、(コ)は、自立活動の指導内容6区分、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションそれぞれの頭文字である。

5 検証授業 I の実際

(1) 1 単位時間の指導過程

通級の対象児童は、学校生活において教師や級友などから注意を繰り返し受けていることがある。その結果「どうせやっても自分はできないから」、「できる自信がない」などと意欲が低下し、学習等への取り掛かりに対して指示待ちが多くなったり、自分らしさを発揮できなかったりして、結果的に自信をなくしがちになる。小島ら⁸⁾(2008)は、「自分らしく生きていくためには自分で自分のことを決める『自己決定力』が不可欠である。」としている。

また、文部科学省⁴⁾「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)」(第7章第3の2の(3)の力)では、「個々の児童又は生徒に対し、自己選択・自己決定する機会を設けることによって、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容を取り上げること。」「児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等により、指示を理解することが困難で行動できなかつたり、聞こえないことから判断できなかつたりすることがある。そのような経験を重ねていくと、自ら判断する力や聞く態度が育成されなばかりか、主体的に取り組もうという意欲も減退させることがある。児童生徒が指導目標を自覚し、改善・克服するための方法等について、自ら学んだり、物事を決定して実行したりすることは、学びを深め、確実な習得を図ることにつながることにもなる。」と自己選択や自己決定の大切さを示している。そこで、自分自身に関わる事柄に関与することを意識したり、どのように選択していくかを考えたりするきっかけになることで、1 単位時間の指導過程に自己選択・自己決定を入れることは有効であると考えた。

このことから、1 単位時間の指導過程に自己選択や自己決定をする機会を取り入れることで「なぜ学ぶのか」が分かり「なりたい自分」に向けて意欲的に学習に取り組む児童を育成することができるのではないかと考えた。

8) 小島道夫・石橋由紀子(2008)『発達障害の子どもがのびる!かわる!「自己決定力」を育てる教育・支援』明治図書

(2) 検証授業Ⅰの視点

1 単位時間の指導過程を以下の三つの工夫を行い、検証授業の視点とした。

【視点1】 活動設定の工夫

対象児が本活動で「なぜ学ぶのか」を理解できるように、学習への必要性や意欲を高める活動の設定の工夫を行った。具体的には、対象児が必要性や意欲をもてるように、学校生活の中から活動を設定した。

【視点2】 学習活動の工夫

対象児が学習の方法を自己選択・自己決定することで、繰り返し学習活動に取り組みやすいようにする。考える視点や方法を示し、対象児が自己選択・自己決定できるように、教材の準備や学習活動の工夫を行った。

【視点3】 振り返りの工夫

本時で学習したことが学校生活上で活用できることを意識できるような振り返りを行う。対象児が本時の学習での自分の頑張りを価値付けし、次時への意欲や学んだことを通常の学級で生かす意欲をもてるようにするために授業後の学校生活へのつながりを意識できるようにした。

(3) 活動計画

本活動では自分の得意なことに注目することで自信を高める課題を設定した。対象児の自信に目を向けさせることで自分自身のよさを実感し、自信があることを他者から評価してもらう心地よさを経験し、「～なら〇〇できる。」という目標とする具体的な姿を、教師との対話を通して自己選択・自己決定できるようにする。(表4)。

表4 「自信があることを見付けよう」の活動計画

	第1時 6月25日(金)	第2時 6月29日(火)	第3時 7月2日(金)	第4時 7月6日(火)
つかむ・見通す	認知機能の向上を目指した活動			
	前時の振り返り			
	本時の流れの確認			
	めあての確認			
	自信があることを見付けよう。	自信があることを教室でやってみよう。	「もっとカッコいい自分」を目指してやってみよう。	もっと自信を付けてみたいことを見付けよう。
活動する	自分の自信度を、ハート型の紙に色を塗ることで表現する。 どうしたら自信が付くか対話を通して気付く。 自信を付けるための方法を決める。	学校生活の行動カードの中から、自信があることベスト3を選択する。 三日間教室でできるように具体的な場や回数を自分で決める。	三日間の行動を振り返る。 学級担任や音楽専科からのメッセージ動画を視聴し、行動のポイントを確認する。 頑張りたいポイントを決めて練習する。	考えたポイントを、実行する。 考えたポイントを活用できているか確認する。 納得したアドバイスを確認して書く。
振り返る	振り返り			

(4) 授業の実際

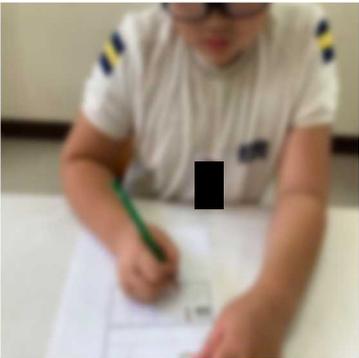
ア 目標 (第2時)

自信があることを教室でやってみよう。

イ 対象児が目指す「なりたい自分」

通常の学級において三日間連続で達成できる自信のあることを決める。

ウ 実際

主な学習活動	教師の働き掛けと児童の反応
<p>1 認知機能の向上を目指した活動。 (ボディイメージをつかむ。)</p> <p>2 前時の振り返り。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体の大きさを客観的に知るために、自分の体を紙に縁取る。 前時までの学習を振り返ることができるように、タブレット端末で学習の流れを提示する。思い出すことで、意欲を継続させスムーズに学習に取り組むことができるようにする。【視点1】  <p>前の学習を思い出すことができ、分かりやすい！ 今日は、クラスでできることを決めるんだったね。</p>
<p>3 本時の見通し。めあて。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>三日間連続で成功する自信のあることを見付けよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 対象児が具体的な回数をイメージできるように対話を通して回数を自己選択・自己決定できるようにする。【視点2】
<p>4 三日間、教室でできるように具体的な回数を決める。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用意し、教室でできることを具体的に自己決定できるようにする。  <p>三日間でどんなことができたなら「自信があること」と言えるかな？</p>  <p>算数ならたくさん発表することができる。でも、先生に当ててもらえないこともあるかもしれない。</p>
<p>5 振り返り。</p>  <div style="border: 2px solid orange; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>「自信を付けたい」を自らハートマークに色を塗ることで表した。</p> </div>	 <p>3日間でどんなことができたなら「自信があること」と言えるかな？</p>  <p>算数の時間に7回は手を挙げる！</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な「目標とする姿」を言葉に出すことで、振り返りでは「何のための学習なのか」を意識した振り返りができるようにする。【視点3】

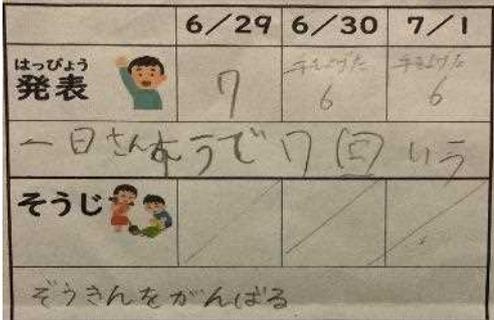
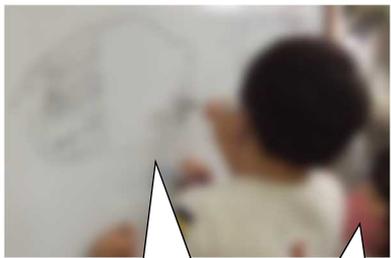
エ 目標（第3時）

もっとカッコいい自分を目指してやってみよう。

オ 対象児が目指す「なりたい自分」

学校生活で自信がある行動を三つ見付ける。（1日7回算数の時間に手を挙げる。雑巾で隅を拭く。朝の歌をねずみキャラクターの声で歌う。）

カ 実際

主な学習活動	教師の働き掛けと児童の反応
<p>1 認知機能の向上を目指した活動。 （ボディイメージをつかむ。）</p> <p>2 前時の振り返り。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ボディイメージをもたせられるように、新聞に開けた穴の大きさを選択させる。楽しい雰囲気です授業を始める。  <p>次は三角の形に切ってきてほしいな。難しそうなものに挑戦したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの学習をワークシートで振り返る。【視点2】  <p>悔しい。もうちょっとできるようにになりたい。</p>
<p>3 本時の見通し。めあて。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もっとカッコいい自分になるための、ポイントを見よう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 4のポイントを考える際に用意していた担任からの動画を視聴することで次の活動へと行動を移すことができた。 	<p>もうちょっとできるようになるために「カッコいいポイント」を見ようか？</p>  <p>やりたくない。</p>  <p>担任の先生からの動画があります。教室でもよく頑張っているね。</p> 
<p>4 掃除をするときのポイントを考え、実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ポイントを考える。  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>階段掃きは、教室がこうなっていると、こういう風に掃くんだよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;"> <p>「順番」はどうしているの？どの「方向」に掃いているの？</p> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 通常の学級担任からの動画を視聴して対象児が本時の学習に意欲を高められるようにする。【視点2】 対象児の自由な発言を言語化し、掃除のポイントを考えることができるようにする。【視点2】 実際に活動することで、掃除の場面を想起しやすいようにする。考えたポイントが実行可能か対話を通して確認する。 【視点2】

- ・ 実際の場面がイメージしやすいように場の想定を決めて掃除の練習をする。



- 5 振り返り。
活動の様子を視聴して掃除のポイントの振り返りをする。



- ・ 実際の活動の様子を動画に撮り、振り返りの際に活用する。【視点3】

まず「順番」はどうする？
「右から左」に掃くんだっ
ね。



- ・ 動画を視聴しながら、対象児が考えたポイントが使えているかを意識した振り返りができるように言葉掛けをする。

【視点2】

- ・ 頑張ったことを称賛して、通常の学級で階段掃きのポイントに気を付けながら、活動しようという意欲をもたせる。

【視点3】

「順番」と「方向」を決めて
から掃くことができている
ね。そうするとゴミを全部集
めることができたね。



階段掃きのポイントは、順番
を決めると、横に掃くこと
を、教室でもやってみる！

(5) 成果と課題

ア 児童の変容（質問紙による聞き取りと行動観察）

心に残っている学習	「階段掃き」の練習をして、友達からも言われなくなって（掃き方を注意されなくなった。）掃除がすんなりできるようになった。うれしかった。
どんなときに役立つか	今回の学習は、掃除の時間に役に立つ。あと、頑張ろうという気持ちをもつことに役立つ。
学級担任の行動観察	友達と順番を決めてから掃く様子があった。以前は、自分の掃きたい方向へ掃く行動があったが、友達の行動を見る様子があった。

イ 成果と課題（○…成果，●…課題）

【視点1】活動設定の工夫	
○ 「自信があることを見付ける」という内容だったため、対象児は第1時では「自信を付けるために頑張る」という意欲をもつことができていた。	● 対象児が目指したい姿を具体的に捉えるための手立てが足りず、第3時では「やらない」との発言があった。学習計画全体を通して、どのような姿を目指すのか、対象児が具体的にイメージできる手立ての工夫が必要である。
○ 学校生活上の自信のあることを活動設定したため、すぐに実行に移すことができ、必要性を感じることができていた。	● 自信があることをよりよくすることに対して必要性を高めたり、意欲を継続していくことが難しかったりするため、活動設定を工夫する必要がある。
○ 意欲が低下した際には、通常の学級担任や音楽専科からの日頃の行動を称賛する動画視聴が有効であった。	

【視点2】学習活動の工夫	
○ 学校生活における自信があることのベスト3を選択し、更に通常の学級で頑張っていた状況の限定や回数を自己選択・自己決定したことで目標とする姿を具体化することができていた。	● 行動をよりよくするために再び考えて行動しようとする姿まで引き出すことができなかった。行動を修正し、再び活動するための時間を指導過程に取り入れる必要がある。
○ 実際の場合を想定し、ほうきを使った活動を行うことで、考えたポイントを意識した活動を行うことができた。	● 学習を繰り返すことのよさを対象児が実感するための、学習活動の工夫をする必要がある。
【視点3】振り返りの工夫	
○ 「できた」ことをイメージしやすい言葉掛けを行い、対象児が「良かった」、「すっきりした」肯定的な言葉で振り返りができるようになった。	● 学習活動の振り返りに限定した言葉掛けになったので、学び方への振り返りを踏まえた視点を取り入れたチェック表などを作成する必要がある。

6 検証授業Ⅱに向けての工夫・改善

(1) 年間指導計画の見直し

対象児は日々成長しているため再び実態を把握し、2学期を中心に年間指導計画の見直しを行うことにした。実態把握の方法の一つとして、始良市で導入している「得意なこと、苦手なことアンケート」で対象児の意識調査を実施した。

検証授業Ⅰにおいて、「自信があること」を更によくすることには必要性の高まりや意欲の継続が見られにくかったため、必要性や意欲を高め、継続することができる活動設定の工夫が重要になると考えた。そこで、アンケート結果(表5)から、「少し苦手」と意識しているものを学習に取り入れることで「少し苦手だけど、できた。」を対象児が実感しやすく、学習に対する必要性や意欲が高まるのではないかと考えた。そこで、少し苦手と自覚している「自分で計画を立てて行動すること。」「文字や漢字を書くこと。」に着目した活動設定をすることにした。また、興味・関心を生かした学習活動にすることも必要性や意欲を高めることにつながるため、アンケート結果を受けて「人と話すこと。」や「絵を書くこと。」を取り入れた課題設定を行うことにし、表6のように学習内容の見直しを行った。

表5 対象児の「得意なこと、苦手なこと」アンケート結果

		とても 苦手	少し 苦手	ふつう	まあ 得意	とても 得意
1	人の話を聞くこと。			○		
2	人と話すこと。				○	
3	文章(教科書や本)を読むこと。			○		
4	文字や漢字を書くこと。		○			
5	ノートに黒板を写すこと。			○		
6	計算をすること。					○
7	作文や日記を書くこと。				○	
8	絵を書くこと。				○	
9	授業で習ったことを覚えること。			○		
10	人前で発表すること。			○		
11	家で宿題をすること。	○				

12	自分で計画を立てて行動すること。		○			
13	授業中、じっと静かに座っていること。					○
14	いろいろ気にせず集中して取り組むこと。			○		
15	約束やルールを守ること。			○		
16	人に手を出さず、ぐっと我慢すること。		○			
17	忘れ物をしないこと。		○			
18	片付けや整理整頓をすること。			○		
19	友達と活動をしたり遊んだりすること。				○	
20	ダンスや水泳、縄跳び等の運動をすること。			○		
21	手先を使って細かい作業をすること。					○
22	楽器（リコーダーなど）で演奏すること。		○			
23	給食を食べること。			○		
24	教室内で聞こえる音。			○		
25	教室内のにおい。		○			
26	教室内の電気などの光。		○			
27	自分を人に見られること（人の視線）。		○			
28	その他（ ）					

表6 「対象児の通級による自立活動の年間指導計画（改善案）」（2学期の抜粋）

短期目標 (2学期)	<ul style="list-style-type: none"> 適切な自己評価ができるように、アドバイスや対話を通して納得した意見を取り入れることができる。 対話を通して学習ポイントを考えることができる。 自分の経験したことと結びつけて目標への見通しをもち、活動と関連付けて意識することができる。 		
月	活動名(時数)	目 標	主な学習内容
9	目標を決めよう(2)	自分の言動を振り返り、適切な目標を設定できる。(心、環) 2学期の学習への意欲を高めることができる。(心)	2学期の目標を立て方。 行事への見通し。
	もう少しでできることって何だろう(3)	自分の得意、苦手を客観的に把握し、もう少しでできることを知り、自信につなげる方法に気付くことができる。(心、環)	自分の苦手なところ、あと少しでできそうなこと。
10	一緒に活動するときの約束ごとを知ろう(4)	約束を守るときポイントに気付くことができる。(環) 約束が守れたときの気持ちに気付くことができる。(心、人)	集団行動の約束事。 通常の学級でのきまり。 きまりを守れている友達のよいところ。
	書くポイントを見付けよう(5)	書く活動の中で興味のあることを決めることができる。(心) 「なりたい自分」を意識した学習に繰り返し取り組み作品をよりよくすることができる。(環)	書くために必要なポイント。 学び方を振り返る。
12	2学期の頑張りを発表しよう(3)	自分の頑張りを認めることができ、発表することができる。(心)	2学期の学習を振り返り。 発表の方法や気を付けること。

(2) プランニングについて

対象児は、「計画を立てて実行することが苦手だ」と自覚している。学校生活では、事前に指示があったにも関わらず忘れてしまったり、級友に声を掛けられてから行動したりするなど次の活動に向けて見通しをもって行動することが難しいことがある。見通しをもつことに困難さのある対象児が意欲を継続し必要性をもって行動をするために、1単位時間の指導過程を工夫すれば、「なりたい自分」に向けて学ぶ児童を育むことができると考えた。

そこで検証授業Ⅱでは、J・A・ナグリエリ&E・B・ピカリング⁹⁾(2010)が提唱したPASS認知処理過程の「プランニング」の考え方に関連した活動を設定することにした。「PASSとは、プランニング、注意、同時処理、継次処理の認知処理過程である。この、PASSという認知処理過程は、人間が考え、学習し、問題を解決するとき用いられるもので、知識やスキルが獲得される基礎となるものである。」と述べている。また、プランニングとは、どのような課題なのかを判断し、課題に取り組む方法を選んだり、実行して進行状況を確認したり修正したりして、必要な場合には新しい方略を生み出したりする認知処理過程である。プランニングに弱さのある児童は、問題にどのように取り組むのか分からず混乱することになり、周りの学習を遮ったり、意欲が低下したりすることがある。プランニングを取り入れた学習では、対象児が筋道を立てて考えることを学習することや成功体験を積み重ねることで意欲が継続できると考えた。

最初のうちは、児童は適切な学習の方略の良さに気付かないことがある。そこで、児童がどのようなときに方略を用いているか意識的に振り返らせたり、方略を用いて学習がうまくいったときに、その方略を強調したりすることで、児童はより積極的に学習方略を使うようになると思う。

(3) 1 単位時間の指導過程

検証授業Ⅱでは、プランニングに関連した活動を設定し、指導過程に明記することにした。ナグリエリ、ピカリング⁹⁾は上手な考え方を教えるためには、「学習するときには、考えよう、やってみよう、モニターしよう、修正しよう、確かめようのプランが必要である」と示している。これらの言葉を対象児に分かりやすく示すために、「考える→やってみる→チェック→パワーアップ」という言葉に変えて1 単位時間の指導過程(表7)を示した。

表7 1 単位時間の指導過程

学習過程	主な学習活動, 指導・支援の配慮事項
認知活動	「書く」力の向上を目指した認知活動を行う。 ゲーム感覚で楽しめるような活動にする。
「なりたい自分」の具体化	姿の具体化 身近な経験から、具体的に「なりたい自分」の姿を立てられるように対話をし、活動計画の目標を立て、活動の見通しをもつ。
考える	ポイントの言語化 対話を通して、今日の目標となる姿のためにどのようなポイントが必要であるかを言語化する。
やってみる	実行する よりよくなるポイントを見付けるために、アドバイスを求める人や物(本や教科書、インターネット等)を決め、ポイントを言語化する。
チェック	確認する 考えたポイントを意識した活動ができているか実行を通して確認する。
パワーアップ	実行する 考えたよりよいポイントを意識した行動ができているか、実行を通して確認する。 考えた行動ができているか確認しながら進める。
振り返る	前時との違いを知り、「なりたい自分」に近づいていることを意識できるようにする。 「学び方」を振り返るようにする。「～をしたから〇〇できた。」というように「～をした」部分を強調するようにする。

9) J・A・ナグリエリ&E・B・ピカリング(2010)『DN-CASによる子どもの学習支援-PASS理論を指導に生かす49のアイデア-』日本文化科学社

7 検証授業Ⅱの実際

(1) 活動計画

「書く」ことの目的意識（〇〇さんが分かりやすいように□を書く）をもち、書いた説明書がよくなるために他者からの意見を聞いて修正できるように「書くポイントを見付けよう」の活動計画（表8）を5時間で設定した。「何のために学習しているのか」を理解した上で、どのアドバイスなら実行しやすいか選択し、アドバイスを取り入れた説明書作りを繰り返すことでよりよい物につなげる。そして、対象児の成功体験を積み重ねることで、必要性を高め、意欲を継続し、学習方法のよさや自己肯定感を高めることにつなげたい。

表8 「書くポイントを見付けよう」の活動計画

	第1時 11月16日(火)	第2時 11月19日(金)	第3時 11月26日(金)	第4時 12月3日(金)	第5時 12月10日(金)
つかむ・見通す	認知機能の向上を目指した活動				
	本時の見通し				
	めあて				
	書くポイントを考えよう。	アドバイスからポイントを見付けよう。	本からポイントを見付けよう。	年賀状のポイントを考えて書こう。	もらってうれしい年賀状を書こう。
確認する	考えよう				
	見本から、必要な「書く」ポイントを考える。	担任にアドバイスをもらう内容を考える。	物(本やタブレット等)を見て、説明書がよりよくなるポイントを考える。	年賀状を書くポイントを考える。	年賀状を書くポイントを調べる。
	やってみよう				
活動する	ポイントに気を付けて書く。	担任にアドバイスをもらう。	考えたポイントを実行する。	考えたポイントを実行する。	考えたポイントを実行する。
	チェックしよう				
	よくなるためのポイントのアドバイスをもらおう。	よりよくなるためのポイントを確認しよう。	考えたポイントを活用できているか確認しよう。	考えたポイントを活用できているか確認しよう。	考えたポイントを活用できているか確認しよう。
	パワーアップしよう				
	納得したアドバイスを使って書く。	納得したアドバイスを確認して書く。	納得したアドバイスを確認して書く。	納得したアドバイスを確認して書く。	納得したアドバイスを確認して書く。
振り返る	振り返ろう				
	なぜそのポイントが大事な理由を考えることができたか。	どんな方法で、新しいポイントを見つけることができたか。	どんな方法でよりよくなるポイントを見つけることができたか。	年賀状でも、前時までと同じような学び方ができたか。	年賀状でも、前時までと同じような学び方ができたか。

(2) 活動を通してねらう児童の姿とその手立て

【視点1】 活動設定の工夫

対象児が「なぜ学ぶのか」理解できるように、習い事の水泳を例に具体的な姿をイメージできるようにする。「水泳でコーチからアドバイスを受け、練習を繰り返すことで25m泳げるようになった。」ことを、本活動の「書く」活動に関連させ学習への意欲を高める工夫を行う。具体的には、対象児が苦手意識のある「書く」活動を、興味・関心のある「工作の説明書作り」とすることで意欲をもたせる。また、書いた説明書を友達に渡すという目的をもつことで必要性を高める。

【視点2】 学習活動の工夫

対象児が「なりたい自分」に向けて学習を繰り返すことができるように、「プランニング」の

考え方を活用して1単位時間の指導過程を設定する。具体的には、通級による指導の1単位時間において「考える→実行する→チェックする→パワーアップする」学習を繰り返し、説明書が良くなっていく体験を積み重ねる。また、対象児が学習方法を自己選択・自己決定できるように、アドバイスをもらう人や物の選択や教材の選択ができるように教材を準備する。

【視点3】 振り返りの工夫

対象児が学び方を振り返ることができるように、学び方への意味付けや価値付けができるような発問やチェック表を準備することで、「どのような方法をもって課題を解決したから～ができた。」ことを意味付け、価値付けできるような言葉掛けをする。

(3) 授業の実際

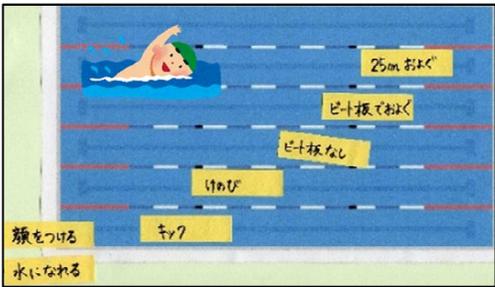
ア 目標 (第1時)

本活動の見通しをもち、目標とする自分の姿について考える。

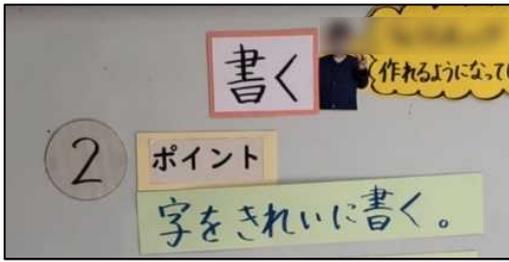
イ 対象児の「なりたい自分」

工作の説明書を作って友達に渡したい。

ウ 実際

主な学習活動	教師の働き掛けと児童の反応																														
<p>1 認知機能の向上を目指した活動。 (ビジョントレーニング)</p> <table border="1" data-bbox="322 884 758 1108"> <tr><td>た</td><td>よ</td><td>ろ</td><td>て</td><td>か</td></tr> <tr><td>ざ</td><td>お</td><td>か</td><td>を</td><td>ゆ</td></tr> <tr><td>く</td><td>り</td><td>お</td><td>み</td><td>さ</td></tr> <tr><td>き</td><td>く</td><td>に</td><td>え</td><td>い</td></tr> <tr><td>そ</td><td>ほ</td><td>な</td><td>す</td><td>も</td></tr> </table> <p>2 本時の見通しをもつ。</p> <table border="1" data-bbox="322 1191 625 1415"> <tr><td>① 考えよう</td></tr> <tr><td>② やってみよう</td></tr> <tr><td>③ チェックしよう</td></tr> <tr><td>④ パワーアップ</td></tr> <tr><td>⑤ ふりかえろう</td></tr> </table> <p>3 習い事の水泳で泳げるようになった経緯を想起し説明する。</p>  <p>4 本時のめあてを知る。</p> <div data-bbox="316 1915 826 2042" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「書く」ときのポイントを見つけて「ぱっくんとび」の説明書を作ろう。</p> </div>	た	よ	ろ	て	か	ざ	お	か	を	ゆ	く	り	お	み	さ	き	く	に	え	い	そ	ほ	な	す	も	① 考えよう	② やってみよう	③ チェックしよう	④ パワーアップ	⑤ ふりかえろう	<ul style="list-style-type: none"> 板書や教科書の視写を想定し、プリントを黒板に貼ったり、机上に置いたりして行う。 文字を小さくしたり片仮名にしたりして対象児が意欲的に取り組めるようにする。 本時の見通しがもてるように学習の流れを提示する。本活動においてどの時間も同じ学び方にするこゝで、学び方を習慣化できるようにする。【視点2】 対象児の身近な成功体験（習い事の水泳）から、アドバイスを受けて練習を繰り返したりすることで上達したことを想起できるようにする。付箋に25m泳げるようになるための過程を書き、アドバイスを受けることでよりよくなっていくイメージを視覚化する。【視点1】 <div data-bbox="845 1608 1428 1796" style="border: 1px solid black; padding: 10px;">  <p>1～2年かかって25m泳げるようになった。コーチに助けてもらった。何度も何度も繰り返して練習した。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 本活動で「何を学ぶのか」の見通しがもてるように、三つの書く活動（工作の説明書、持久走大会の招待状、年賀状）の中から自己選択できるように例となる作品を提示する。【視点1】
た	よ	ろ	て	か																											
ざ	お	か	を	ゆ																											
く	り	お	み	さ																											
き	く	に	え	い																											
そ	ほ	な	す	も																											
① 考えよう																															
② やってみよう																															
③ チェックしよう																															
④ パワーアップ																															
⑤ ふりかえろう																															

- 5 考えよう。
書くポイントを考える。



- 6 やってみよう。
「書く」ポイントを確認し、説明書を作成する。



- 7 チェックしよう。
8 パワーアップしよう。
次に頑張りたいポイントを決める。
9 今日の学習を振り返る。



Aさんにぱっくん跳びの説明書を書いて渡したい！

- 書く目的を確認して、説明書を書くときに必要なポイントを考え、対話から、キーワードを文字化することができるようにする。【視点2】

- 自分が考えたポイントに気を付けて書いているかチェックタイムを設定する。

【視点2】



いつもより丁寧に書けた。



丁寧に書いたね！もっと説明書で工夫できるところはなかな？



ない。



水泳で25m泳げるようになったときのように、誰かからアドバイスもらって、もっとパワーアップした説明書にしてはどうか？

- 「学び方」を振り返ることができるような言葉掛けをする。【視点3】
- 本時の頑張りを称賛して、次時の活動の意欲をもたせる。

エ 目標 (第2時)

人に聞いたアドバイスから、書くポイントを見付けよう。

オ 対象児が目指すなりたい自分

担任の先生にアドバイスを聞いて、説明書を分かりやすくすることができる。

カ 実際

主な学習活動	教師の働き掛けと児童の反応
1 認知機能の向上を目指した活動。(ビジョントレーニング)	<ul style="list-style-type: none"> 「なりたい自分」を意識できるために活動全体の流れを見通し、目指す姿「友達が作りやすいようにする。」を意識し意欲的に学習に取り組むことができるようにする。【視点2】
2 活動全体の見通し。(本時は②)	
① 自分で考える。	<p>今日は先生にアドバイスをもらいに行く日だ。説明書が分かりやすくなるためのアドバイスがほしい。</p>
② 人から聞く。	
③ 自分で調べる。	
④ 友達に聞く。	

3 本時のめあてを知る。

「書く」ときのポイントを見つけてより良い説明書を作ろう。

4 考えよう。

質問内容を考え、メモする。

5 やってみよう。

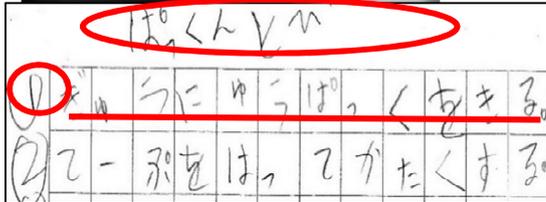
担任にアドバイスを求める。



6 アドバイスから、説明書がよりよくなるポイントを考える。



7 パワーアップしよう。



8 振り返ろう。

このやりかたでうまくいっていますか？	
もっと良いべつのほうほうはありますか？	
このやり方は自分に合っていますか？	

・ 前時で書いた説明書よりよくなるためにアドバイスをもらうことを確認する。

【視点2】

- ・ 質問内容を教師と一緒に考えるようにする。
- ・ タブレット端末に録音するように言葉掛けをする。
- ・ 事前に学級担任に説明し、アドバイスを三つに絞って話すように伝えておく。

【視点2】



順番が分かるように数字を書いたらどう？
題名を書いたら何の説明書が分かりやすいかもね。

- ・ タブレット端末に録音したアドバイスを確認し、視覚化することで意識できるようにする。
- ・ 書く目的を確認し、対象児が納得したアドバイスや使ってみたいアドバイスを決定できるようにする。【視点1, 2】



数字を書くと、順番が分かりやすそうだな。使ってみようかな。

- ・ よりよくなるために必要なアドバイスを選択して実行できるようにする。【視点2】

担任からのアドバイス

- ① 題名 ② 横書き ③ 番号を付ける
を取り入れて、書き換える。

- ・ アドバイスを取り入れて書けたか、チェックし、称賛する。【視点3】
- ・ 「書く」活動は、学校の様々な場面であることを想起させるような言葉掛けをする。【視点3】
- ・ 説明書として、よりよくなった実感をもたせることで、今回の学び方が有効であったことを実感させる。【視点2】

(4) 成果と課題 (○…成果, ●…課題)

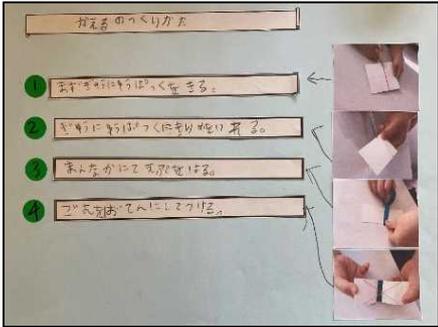
【視点1】活動設定の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心のある工作の説明書を自己選択・自己決定し、書くことで、苦手意識のある「書く」ことに対して意欲的に取り組むことができた。 ○ 自ら説明書を渡したいという思いをもち渡す相手を決めたことで必要性をもって説明書を作り上げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 工作の説明書は意欲を継続できたり、必要性をもったりすることができた。異なる学習課題への意欲の高め方や必要性のたせ方への手立てを考える必要がある。
【視点2】学習活動の工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動全体の見通しをもつための掲示をすることで、学ぶ方法を「今日は担任にアドバイスをもらって説明書をよくする。」と自覚し、学習を繰り返す姿が見られた。また担任以外にも、保護者や通級指導教室の担当に説明書を見せてアドバイスを受け入れることができた。 ○ プランニングの学習過程を取り入れ、活動を見通した言動や、修正に落ち着いて取り組む姿が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習方法の選択の際に、教師主導になることがあった。まずは、対象児が「○○することによって～なる。」と予想を立てられるように、これまでの経験等を確認し、学習の整理をする手立ても有効である。 ● 今回は、教師からのアドバイスになったが、次回は友達や同年代からのアドバイスを求める練習を経験していく必要があると考える。
【視点3】振り返りの工夫	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 振り返りの視点「学び方」を意識できるような発問の仕方を工夫することで、何回も練習して上達したことや、アドバイスを受け入れて練習することはよくなることを実感することができた。 ○ 「学び方」を意識できるようにチェック表を活用し、意味付けや価値付けをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自立活動の学習を通して学び方をより理解でき、学習の積み重ねを実感することができるようにする必要がある。 ● 児童が振り返ることができるようチェック表作りを精選していく必要がある。 ● 「書く」ことへの苦手意識は、どのような書く場合なのかを細かく分析する必要がある。また、その苦手さを段階表に表すことで「できた」の意味付けや価値付けをよりよくしていく必要があると考える。

(5) 活動全体を終えての振り返り

ア 説明書の比較をすることでの振り返り



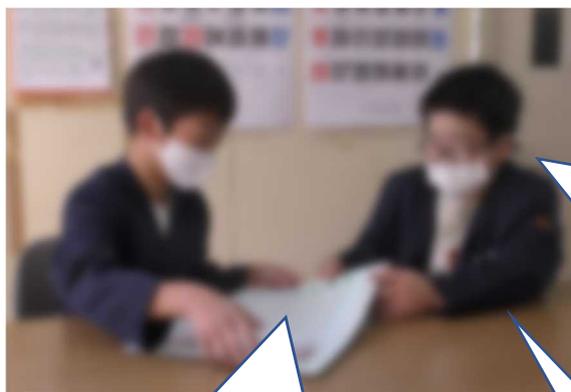
↔





説明書が進化した！最初よりよくなった！

イ 第1時に決めた「友達に渡す」を昼休みに実行した。昼休みに通級指導教室に誘い、説明書を渡して実際に工作をしてもらい遊ぶ時間を設定した。



教えることができてよかった。
作り上げることができてよかった。
また、作って、友達に渡してみたい。

ありがとう。作って
みたい！

Aさんのために説
明書を書いたよ。
どうぞ。

「かえるの作り方」のせつめい書をもってどんな気持ちになりましたか？

自分にせつめい書を書くと思っただけだったので
良かったです。

作りやすかったですか？

とても作りやすかったです。

せつめい書の良かった所を教えてください。

糸があって分かりやすかったです。

Aさんの感想

① 吉海先生との学習でできるようになったこと・分かったことは何ですか。

おしるきょうりになったしんかした
アドバイス

② 神戸君の良さや成長に気付くことができましたか。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

③ 今回の学習はどんな時に役に立ちそうですか。

おぼろ

対象児のアンケート

IV 研究のまとめ

○ 本研究を通して対象児は、通級による指導での学習において集中する時間が増えた。検証授業Ⅰでは、約20分程度で意欲の低下が見られたが、別の活動を用意することで学習が継続した。一方で、検証授業Ⅱにおいては、45分間の学習に対する意欲の継続と集中が見られた。このことから、対象児の興味・関心を生かした課題設定では、学習に対する必要性や意欲の高まりが認められた。振り返りにおいては、自分自身の頑張りを素直に受け止める姿はこれまではあまり見られなかった。しかし、検証授業Ⅱでは説明書が視覚的によりよくなったことを理解できたため、実感を伴って成長している自分自身を自覚したことで、「できた」と喜びを表し、自信を高める姿が見られた。その説明書を学級の友達に披露できたときの喜びは、これまで対象児に関わる中で一番の笑顔であった。その姿は、本研究における「なぜ学ぶのか」が分かり「なりたい自分」に向けて学習に取り組む児童の姿の具現化であった。

プランニングの学び方を取り入れたことで、「どうすればいいかな。」とすぐに行動する前に一旦考えてから次の行動をする様子が見られた。また、学習方法を自己選択・自己決定をすることは、児童の思いや考えを尊重していくことになり、意欲が継続し学習に対して楽しむ様子や、記憶に残る様子があった。

- 年間指導計画を作成する際には、複数の教師により多面的に実態把握を行い、指導すべき中心的な課題を抽出した上で指導目標を設定することがとても重要である。

また、中心的な課題と長期目標や短期目標のつながりがあるか、短期目標と各活動の指導目標につながりがあるかを意識しながら年間指導計画を作成したことで、児童の実態に即した指導につながることが分かった。そして、児童の実態を踏まえながら定期的に見直しをしておくことでより実態に応じた指導につながる。

より多くの情報を自立活動の6区分27項目に分け、関連させたことで長期的な目標「1年後に付けたい力」を意識した一貫性、系統性のある指導の計画につなげることができた。また、ふだん学校で取り組んでいるアンケートを活用することで、新たにアンケートを考えたり実施したりする必要はない。学校では年間いくつものアンケートや検査を実施するので、その結果を、どのように活用していくのかを整理することによって、更に多くの情報として実態把握に取り組むことができる。

本研究においては、通常の学級担任のみと実態把握の場を設定した。今後は、養護教諭や専科等対象児に関わる全ての教師からの情報収集や、保護者や本人も含めた情報収集の場を設定することが望ましいと考えている。

- 1単位時間の指導過程においては、学習意欲が高まるように、児童の興味・関心を生かした活動を設定し、学習方法を自己選択・自己決定できるように学習活動を工夫するとともに、学んだことを学校生活で生かし実感できるようにすることが必要である。

学習方法を児童自身が自己選択・自己決定することができるようになるためには、自分なりのやり方が理解できるようになることが大切である。そのためには、教師が学習方法を提案するだけではなく、学習の積み重ねから児童自身が活用できるようにすることが必要になってくる。つまり、様々な学習方法を知り、自分に合った学習方法を見付けたり選択できたりするようになることが大事になってくる。そのためには、通級による指導での学習の積み重ねを振り返ることができるようなまとめファイルを作成し、児童が学んだことを自覚していくことも大事になる。本研究においては一人の対象児童を中心とした研究を行った。今後は他児における年間指導計画の作成や1単位時間の指導過程の工夫を行っていきたい。

<引用文献>

- 1) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2019) 『(参考) 通級による指導の現状』
https://www.mext.go.jp/compmponent/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afielldfile/2019/03/06/1414032_09.pdf
(2021年4月21日閲覧)
- 2) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 (2021) 『新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議報告』
https://www.mext.go.jp/content/20210208-mxt_tokubetu02-000012615_2.pdf
(2021年8月20日閲覧)
- 3) 文部科学省 (2021) 『障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～』
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1340250_00001.htm
(2021年7月3日閲覧)
- 4) 文部科学省 (2019) 『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編(幼稚部・小学部・中学部)』 (3版) 開隆堂
- 5) 国立特別支援教育総合研究所 (2016) 『特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導に関する研究』
<https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/12406/saika8.pdf>
(2021年5月1日閲覧)
- 6) 国立特別支援教育総合研究所 (2021) 『社会とのつながりを意識した発達障害への専門性のある支援に関する研究』
<file:///C:/Users/study605/Downloads/b-372.pdf> (2021年6月27日閲覧)
- 7) 安藤隆男 (2001) 『自立活動における個別の指導計画の理念と実際』 川島書店
- 8) 小島道夫・石橋由紀子 (2008) 『発達障害の子どもがのびる! かわる! 「自己決定力」を育てる教育・支援』 明治図書
- 9) J・A・ナグリエリ&E・B・ピカリング (2010) 『DN-CASによる子どもの学習支援-PASS理論を指導に生かす49のアイディア-』 日本文化科学社

<参考文献>

- 国立特別支援教育総合研究所 (2018) 『個別の指導計画 作成と評価ハンドブック』 学研
- 鹿児島大学教育学部 (2013) 『特別支援教育の学習指導案と授業研究—子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり—』 ジアース教育新社
- 国立特別支援教育総合研究所 (2018) 『小学校・中学校 通常の学級の先生のための手引き書—通級による指導を通常の学級での指導に生かす—』 ジアース教育新社
- 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 東洋館
- 文部科学省 (2018) 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 総則編』 (2版) 東洋館
- 古川勝也・一木薫 (2020) 『自立活動の理念と実践[改訂版]実態把握から指導目標・内容の設営に至るプロセス』 ジアース教育新社

長期研修者 [吉海 直]

担当所員 [宇田 学治]

【研究の概要】

本研究は、自閉症・情緒障害通級指導教室における児童の自立活動について研究したものである。

具体的には、通級による指導を受けている児童が「なぜ学ぶのか」を理解し、目標とする「なりたい自分」を具体的に考えて学習に取り組めるように、児童の実態を的確に把握した上で個別の年間指導計画を作成し、1単位時間の指導過程の工夫を行った。また、学期ごとに年間指導計画の見直し、1単位時間の指導過程にプランニングの考え方を取り入れ、児童の学習に対する必要性を高めたり意欲が継続したりする学習内容を設定した。

その結果、通級による指導での学習において、集中する時間が増えたり、実感を伴って成長している自分自身を自覚できるようになったりし、「できた」と喜びを表し、自信を高める児童の姿が見られるようになった。

【担当所員の所見】

通級による指導の担当教師には、通常教育課程に基づく指導の専門性を基盤として、実際に指導に当たる上で必要な、特別な教育課程の編成方法や、個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成方法、障害の特性等に応じた指導方法、自立活動を実践する力、障害のある児童生徒の保護者支援の方法、関係者間との連携の方法等に関する専門性の習得が求められている。

本研究では、的確な実態把握に基づいた中心的な課題の設定、個別の年間指導計画作成、指導過程の工夫を自立活動の授業を通して実践検証してきた。

この研究を通して、1単位時間の指導過程において、興味・関心を生かした学習内容の設定、教材や学習方法の自己選択・自己決定が有効であることが明らかになった。また、個に応じた手立ての工夫を行った結果、対象児の苦手意識を軽減できるようになったことは大きな成果であると考えられる。

今後、更に本研究を発展させ、通級による指導で高まった力を、通常の学級でも生かすことにつなげられるように努めてほしい。